

新規採用職員の皆さん、初めまして、市長の武内和久でございます。

入職おめでとうございます。

皆さんは、学生生活や就職活動など、あらゆる場面においてコロナ禍の影響を大きく受けました。

思うように活動できず、不安に思うことや、辛いこともあったと思います。

そうした中で、皆さんが北九州市職員の道を選んでくれたことを市長として、本当にうれしく思います。

心から感謝を申し上げます。

さて、本日152名の方を北九州市役所の仲間にお迎えいたしました。

それぞれ今日からスタートする新たな生活への期待と不安で、胸がいっぱいだと思います。

これから皆さんは、2週間の研修を経て、いよいよ行政実務に携わることになりますが、市役所には様々な仕事があります。配属先によって、それぞれが全く違う仕事をするようになります。

どれも市民生活を支える大切な仕事ですが、今日は私が皆さんを採用する立場として、部署を問わず大切にしてもらいたいと思っていること、北九州市の職員として働く上での、心構えについてお話したいと思います。

まず私が職員の皆様に常々お話ししているのが、挑戦するということです。

最近市民の方から、町が寂しくなった。若い人が減ったという声を聞くことがあります。

確かに北九州市には、人口減少や厳しい財政状況など、多くの課題があります。

しかし課題があるということは解決できるということです。改善の道が見えているということです。

ピンチをチャンスに変えていく、その気概で一緒にやってみましょう。

北九州市はこれまでも公害克服や、暴力団追放など、幾多の困難を官民一体となって乗り越えてきました。

課題から逃げずに行動し、未来を切り開いてきた実績があります。

未来を切り開けるかどうか、それを分けるのは挑戦です。

10の挑戦のうち、一つの成功があれば、北九州市を変えられるかもしれません。9の失敗を恐れて動かないことは、いけません。

皆さんには、今日から現場で思いっきり挑戦をしていただきたい。

皆さんが高い志と熱意を持って働き、明るいエネルギーの渦を生み出し、市民の皆様の心に火をつけていく。

それができれば、まちの魅力はますます高まります。

もう一度、課題はピンチではなくチャンスだと考えていただきたい。皆さんの挑戦が第一歩です。

失敗することを恐れずに、人間として挑戦をしていくこと、これを大切にしていきたいと思います。

次に私が最も大切にしたいことは、未来志向の対話です。

挑戦には、摩擦がつきものです。新しいことを始めると、前例がない、国や県ではやっていない、といった否定的な意見も必ず出てくることでしょう。

これをネガティブにとらえてはいけません。意見が違っても大歓迎です。

意見が出る、対立するということは、関心を持っていただいたということです。

摩擦を恐れず、関係者とオープンに、率直に、未来志向の対話をするのが大切です。

対話を重ね、意見をぶつけ合った末にこそ進歩があります。

様々な立場からの異なる意見が、かけ合わせることで、新たな発想が生まれてくるのです。

特に、新たに採用された皆さんは、公務員ではない、一市民としての感覚、時代の風に対する敏感なアンテナを持っておられます。多くの方はデジタルネイティブ世代でもあります。

社会環境が目まぐるしく変化し、行政ニーズが複雑化・多様化する今日において、これは先輩職員に負けない皆さんの強みです。

日々の仕事において、できない理由ではなく、どうすればできるかを考えていただきたいと思います。

常に市民の方を向き、小さな違和感を大切にして、前例を破り、自らが前例を作っていくという気概でやっていきましょう。

そして、先ほど代表者の方からサービスの宣誓をいただきました。

責務を深く自覚し、全体の奉仕者として、誠実かつ公正に職務を執行することを固く誓います、とありました。

これは市民の皆様に対する約束です。これを常に肝に銘じてください。

行政運営には、市民の皆様との信頼関係が欠かせません。一つの過ちが市職員全体の信頼を失墜させることとなります。

信頼を失うのは一瞬ですが、それを回復するには、大変な努力と時間を必要とします。

北九州市の職員であることを常に忘れず、自らを厳しく律し、市民の皆様から信頼される職員になっていただきたいと思います。

皆さんは北九州市役所という大きな船の乗組員です。時には嵐や大波もあるでしょう。

望まない仕事を担当することもあるでしょう。

ですが、すべての業務が市民生活を支える大切な仕事です。その先には市民の皆様の幸せが必ずあります。

皆さんの履歴書を拝見しましたが、多くの方が市民のために働きたい、まちに恩返しをしたいと、書かれていました。

これは大変すばらしいことです。これを忘れないでください。

ご存知の通り、私も2月に市長に就任したばかりです。言ってみれば皆さんとは、入庁同期ということになります。常に市民の方を向き、元気で明るく活気のある北九州市という目的地に向かって一緒に挑戦をしていきましょう。

ここまでが、準備した原稿なんですけれども。

私自身もちょうど29年前、約30年前に厚生労働省という役所に最初入りました。

皆さんと同じように公務員としての門を叩きました。

そういう意味では皆さんより少しというか、結構、先輩でもあるんですけども。

今日いらしてらっしゃる方は、20代の方がほとんどだと思います。

いくつかメッセージをお送りしたいと思います。

私もですね、振り返って、私の20代はさんざんでしたよ、本当にいろんなことがありました。泥だらけの時代でした。

私自身が22歳で公務員の世界に入って、何だか役所の仕事が約子定規な仕事のように思えて。また、役所の古くからある習わしに反発するようなどころもあってですね、結果、人気のない部署に異動をさせられて、冷や飯を食うようなことがあったり。或いはいろんな今で言うパワハラまがいのね、厳しい指導を当時は受けることも多々あって、冴えない職員だったんですけども。

20代の最後の年に、ある先輩が当時できの悪かった私に、毎晩深夜までマンツーマンで法律の読み方・書き方、これをずっと教えてくれたことがあります。

私にどうやって法律を読むのか、書くのか、ずっと家庭教師のように教えてくださったんですね。

その結果、私は行政の仕事っていうのもすごく面白くなって、また行政を進めるということに、ものすごくやりがいを感じ始めまして、もう俄然仕事が面白くなって、24時間それから仕事に没頭するようになり、とことん公務員としての基礎を20代のうちに作ることができました。

その先輩に後で本当にありがとうございましたご指導いただいてというふうに話をしましたら、その先輩は人事課からこう言われたそうなんです。

武内は、いろいろ考えるとこころがあって、今うまくいってないけれども、何とか武内を男にしてやってくれと。

当時ね、そういう言い方で、先輩が私を指導して、何とか一人前にしてやろうということで、一生懸命に指導して

くれたということを後で聞きました。

そういう時に、やはり組織の温かさとか、やはり懐の深さというものを知ることができました。

やはり皆さん、こうやって採用して一緒に職場の仲間として、組織として受け入れた以上、私どもは誰1人、見捨てずに、必ず、お一人お一人の可能性を存分に引き出して、100%皆さんの思いや力が発揮できるような職場にしていきたいと思ひますし、そのためのサポートを惜しみません。

先ほど挑戦をして欲しいと申し上げましたけれども、やはり挑戦には必ずリスクが付きものです。

そして失敗することもあるでしょう。ただ、失敗しても私たちは皆さんを守ります。なので、思い切って挑戦をしていただきたいと思ひます。

それから私の今の20代の話ありましたけれども、やはり出会いこそ人生です。

いろいろな方にこれから職場の先輩同僚、或いは役所の外の方にたくさん出会うことができるでしょう。

ただ、出会った人を、お一人、お一人を大切にしていきたいと思ひます。

嫌なことを言う上司の方も、またそれも自分の糧になっていくし、新しい世界、いろいろな外の世界で出会う方々から得られる知見というものもたくさんあります。

出会いこそ人生。必ずいつか誰かと出会ったこと、そしていろいろな苦しい思いや、つらい思い、情けない思いをすることがあっても、それは必ず最後に一つの線になって、点と点が一つの線になって、後々の人生で大きく効いてくると思ひます。

ですから、皆さんは、これから出会う一つの出会い、これを大切にしていきたいというふうに思ひます。

北九州市。私が当時29年前に国の役所に入ったときに、北九州市っていうのはものすごく優秀で、ものすごくしっかりした行政をしてるので、北九州市の人と人脈を作りなさいと当時言われたことを覚えています。

伝統的に北九州市は、やはり日本の行政を引っ張ってきた。

そして、日本の自治体の一つのモデルとしての地位を確固たるものにしてきたと、私は確信しています。

この1ヶ月ちょっと、私が着任してからも本当にそれをひしひしと感じてます。

皆さんの挑戦、そして思いがどんどん形になっていけば、必ず北九州市は日本一の市役所になれる、日本一の地方自治体になれる、と私は思ひますので、そこに向かってやっていきましょう。

日本を動かす北九州市、世界と戦う北九州市、そこに向かって一緒に力を合わせていきましょう。

皆さんが北九州市の職員であるということを誇りに持ち、そしてご活躍されること、

そして私たちの仲間として、これから市民の皆さんのために尽くす、そういう姿勢を行っていただけること、

それを心から祈念をし、またお願いをいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

これから頑張ってください。